

♡ Heart to Heart ♡

城陽市立北城陽中学校 道徳部

2018/06/06

第1号

北城陽中学校の道徳教育

～あい学習を通して、考え語り合える道徳の時間を目指して～

本校は平成20・21年度の2年間、文部科学省指定の道徳教育推進校として、研究を進めてきました。あれから10年、様々な取組や研修会を継続しながら、よりよい道徳教育を追求し、日々努力を続けています。北城陽中学校が大切にしてきた道徳教育のキーワードの中に、「自己内対話」というものがあります。これは、自分自身を見つめ直し、問いかけることで、自分の中にある道徳性を深めることです。かつ、周りの人の意見を聞いて、自分との違

や共通点を確認することで、より考えを深めることができると思っています。

小学校では今年度から「道徳科」が本格実施されました。いよいよ中学校も来年度から「道徳科」が導入されます。新学習指導要領に則り、皆と議論したり、語り合ったりすることで、道徳的価値を深めたり、様々な価値観を認めあえたりできる集団づくりを求めていきたいと考えています。

今年のテーマ

今年度のテーマは、

「あい学習を通して、考え語り合える道徳の時間を目指して」です。

二人組で意見交換をしたり、少し広げて四人組で話し合ったり、活発に意見交流できるように各担任が工夫を試みています。

グループの真ん中には生徒の意見がたくさん書かれたホワイトボードがあります。自分の意見を発表する力や、他者を尊重し、受け入れる力を付けてほしいと願っています。

体験学習と道徳教育

5月は1年生では「福祉体験学習」、2年生では「職場体験学習」、3年生では「高校訪問」の体験学習を実施しました。この活動と並行して、より学びが深まるような道徳教材を使用し、学習を進めていきました。生徒が体験学習で同じ経験をすることで、教材への理解も深まります。

今回学習した道徳の時間の感想をいくつか紹介しています。裏面をご覧ください。



1年生 「車いすの少年」

あらすじ イギリスでの話。溝に車いすの車輪がはまって困っている少年がいた。思わず助けようとしたわたしは、イギリス人に「NO」と言われる。周りの人たちは、少年を囲み、皆で少年を応援していた。

●困っている少年を助けずに、励ましの声をかけるイギリス人に驚いたけれど、その真意には「思いやり」があることに気付きました。「思いやり」とは「相手の気持ちを大切にすることではないか」と思います。イギリス人は、少年が脱輪させてしまっても助けなかったけれど、少年を大切に思ってこそその行動だと分かりました。自分と同じように、他の人の事も大切に思い、励まし合うことの大切さを学びました。

(1年生 生徒)

2年生 「魔法の右手」

あらすじ 「魔法の手を持つ発明家」として多くの人に「当たり前のことのできる喜び」を届けている加藤源重さんをとおして、「働くということ」について考ええた。

●今日の資料から、人は誰かから頼りにされて必要とされているから輝くことができ、働くことができるということ学んだ。加藤さんは、自分と同じように不自由にしている人のために働き、周りの人々から認められるようになった。私も人から必要とされ、自分に自信が持てるような仕事に出会いたいと思った。(2年生 生徒)



3年生 「新入社員」

あらすじ 新入社員の「佐藤さん」はあいさつの練習で2度のやり直しを命じられた。

「首を前に下げると髪が下がるので、横に曲げて挨拶をする」という自分のお辞儀をしようと考えた。

●今日の授業で私は大人になって、挨拶はできても正しい礼儀を完璧にするのは難しいかなと思いました。礼儀はいろんな礼儀があると思うけど、まずはできる事から使っていきたいです。毎朝、地域の人に会うと自分から挨拶をしています。すると笑顔で返してくださるので、うれしいです。これからも朝、挨拶することを忘れずにしていこうと思いました。

(3年生 生徒)

5/28(土)土曜活用の日 道徳の時間の授業参観

たくさんのご参観、ありがとうございました



◆生徒たちは自分自身で考え、自分の意見をみんなと交流します。その時に、自分の考えと同じ人もいれば、自分と全く違う意見の人もいます。意見交流は、自分自身の考えの幅を広げていきます。

◆週に1時間の時間ですが、その中で、たくさんの価値に出会い、違いを認め、受け入れることができる人になってほしいと思っています。

◆保護者の方の参観の感想から「とてもよい資料で、感動しました」と書いて頂きました。ご家庭でも話題にさせていただけたら幸いです。